

# 人と繋がり、人を知る 人生の楽しみを創造する職業、ケアマネジャー

**大**変だけど、この仕事が好き——。ケアマネジャーの仕事の魅力を知ってもらいたい——。多くのケアマネジャーの皆さんから聞く言葉だ。とはいえ、新規採用は進まず離職は増え、人材不足は深刻な状況だ。そこで、この業界の仕事の魅力を発信したいと意欲を燃やす鈴木篤史さんとともに改めて、唯一無二であるケアマネジャーの業務から得られる充足感の源泉を振り返り、共に創る将来像を考えてみたい。

## 魅力ある仕事と再認識を 「ケアマネになりたい」と思えるように

ご存知の通り介護支援専門員実務研修受講試験は依然として狭き門で、合格率は10～20%台で推移<sup>\*1</sup>しています。合格者で最も多いのは介護福祉士からケアマネジャー（以下、ケアマネ）を目指すケースで、合格者の半数以上を占めています。しかしながら、試験に合格しても積極的にケアマネ業務をしたいと思う人が少ないように感じます。介護福祉士からケアマネになった私の個人的な所感ですが、下記のような原因があるのではないかと感じています。

- いまの職場（介護）が人手不足のため、退職しづらい
- 介護福祉士で夜勤をした方がケアマネの給与より多い
- パソコン業務に苦手意識がある
- 請求業務や個性性の高い業務が難しそうに感じる
- 専門知識を探求し続けることにハードルを感じる
- やりがいがあるのか疑問に感じている

このように、介護現場の慢性的な人手不足が影響しているだけでなく、ケアマネの給与面、業務が複雑で多忙に見えるなど、ケアマネの仕事の魅力が伝わっていないのではないかと感じています。私は、ケアマネの仕事はとてもやりがいがあると思っています。そしてこの仕事の魅力はひとえに、「人との繋がり」だと思っています。そこで本稿では、人との繋がりをどのように作り、どのようにやりがいに繋がるかをお伝えしたいと思います。

## 裁量の大きさが達成感に 利用者の笑顔を生み出す「責任」

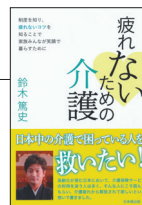
私がケアマネになった頃、先輩に「ケアマネは個人事業のようなもの」と言われました。



執筆 ▶

### 鈴木篤史

●主任介護支援専門員、相談支援専門員  
22歳から介護業界で働き始め、介護支援専門員の資格を取得。現在は大手総合福祉企業で主任介護支援専門員（エリアマネジャー）として勤務。著書に「疲れないための介護」（発行：日本橋出版）



多くの居宅介護支援事業所では、各自のケースについては各自で判断し動くことが多いと思います。

ご利用者の生活を実際に自分の目で見てご利用者を知ったうえで、その後のご利用者の人生がより幸福になるケアプランを共に考え提案する。1人の人とその家族の人生を左右する仕事のため責任重大です。このような裁量の大きさも、ケアマネのやりがいに繋がっているかもしれません。

私はこれまで沢山のご利用者の担当をしてきました。会社での立場上でも、事業所内のケアマネが担当しているケースを何千件も見してきました。私が同僚や仲間から相談を受けたり、ケアプランの指導を行った経験から、重要だと思ったことが、「アセスメント」です。適切なアセスメントをしたうえでつくるケアプランは、よりご利用者本人の自立と希望を叶えるプランになり、ご利用者と家族の笑顔に繋がります。ケアマネの仕事の醍醐味ではないでしょうか。そこでケアマネの魅力の1つである「アセスメント」について触れていきたいと思います。

## 「知ろうとする」姿勢に能力や経験の差はない

ケアマネ業務や在宅サービスに慣れてくると恐ろしいもの